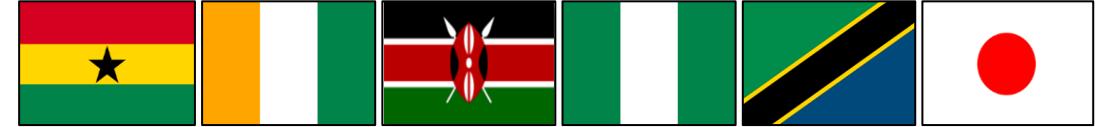


(独) 国際協力機構 (JICA) /
日・アフリカ農業イノベーションセンター (AFICAT)



2025年12月18日（木）開催

JiPFA／有識者会合

日・アフリカ農業イノベーションセンター
(AFICAT)



「アフリカ地域サブサハラアフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化展開に係る情報収集・確認調査」
(株)かいはつマネジメント・コンサルティング

発表概要

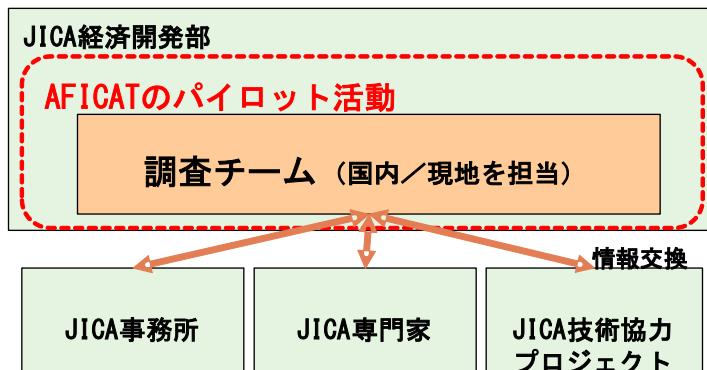
- 1) AFICATの背景
- 2) AFICATの活動実績
- 3) 本邦企業からのフィードバック
- 4) まとめ

1) AFICATの背景 ①これまでの経緯

イベント／調査名		主な活動
2019年8月	第7回アフリカ開発会議（TICAD7）	官民ビジネス対話でAFICATを設置することが日本の民間セクターから提案された。
2020年4月 ～2022年2月	アフリカ地域先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査（先行調査）	アフリカ4カ国でAFICATをどこにどのように設置できるか提案された。
2022年2月 ～2024年2月	アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化振興にかかる情報収集・確認調査（先行調査）	上記の提案に基づき、アフリカ5カ国でパイロット活動としてAFICATが稼働した。得られた経験や教訓を基に、中長期的なAFICATの実施体制や活動案が提案された。
2024年2月 ～2026年2月	アフリカ地域サブサハラアフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化展開に係る情報収集・確認調査（QCBS-ランプサム型）（本調査）	先行調査で提案されたAFICATの実施体制や活動案を基に、AFICATを稼働する。

JICA側の実施体制

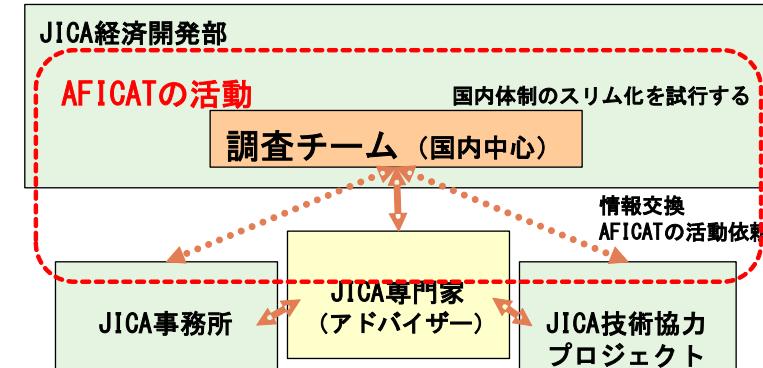
パイロット活動（先行調査：2022年2月～2024年2月）



- 現地政府機関と連携しつつ、調査チームが日本国内／現地でパイロット活動を実施。



本調査（2024年2月～）



各国にいるJICA専門家（アドバイザー）が各国におけるAFICAの活動を担当（アドバイザーがいる場合＊）
＊ケニア、ナイジェリア、タンザニア

- AFICATを現地で運営する組織（AFICAT委員会／AFICAT事務局）が組織され＊、JICA専門家/JICA事務所が運営を支援。

＊ケニア、ナイジェリア、コートジボワール

- 調査チームは日本国内の活動を中心に実施。

1) AFICATの背景 ②AFICATの基本的なコンセプトと機能

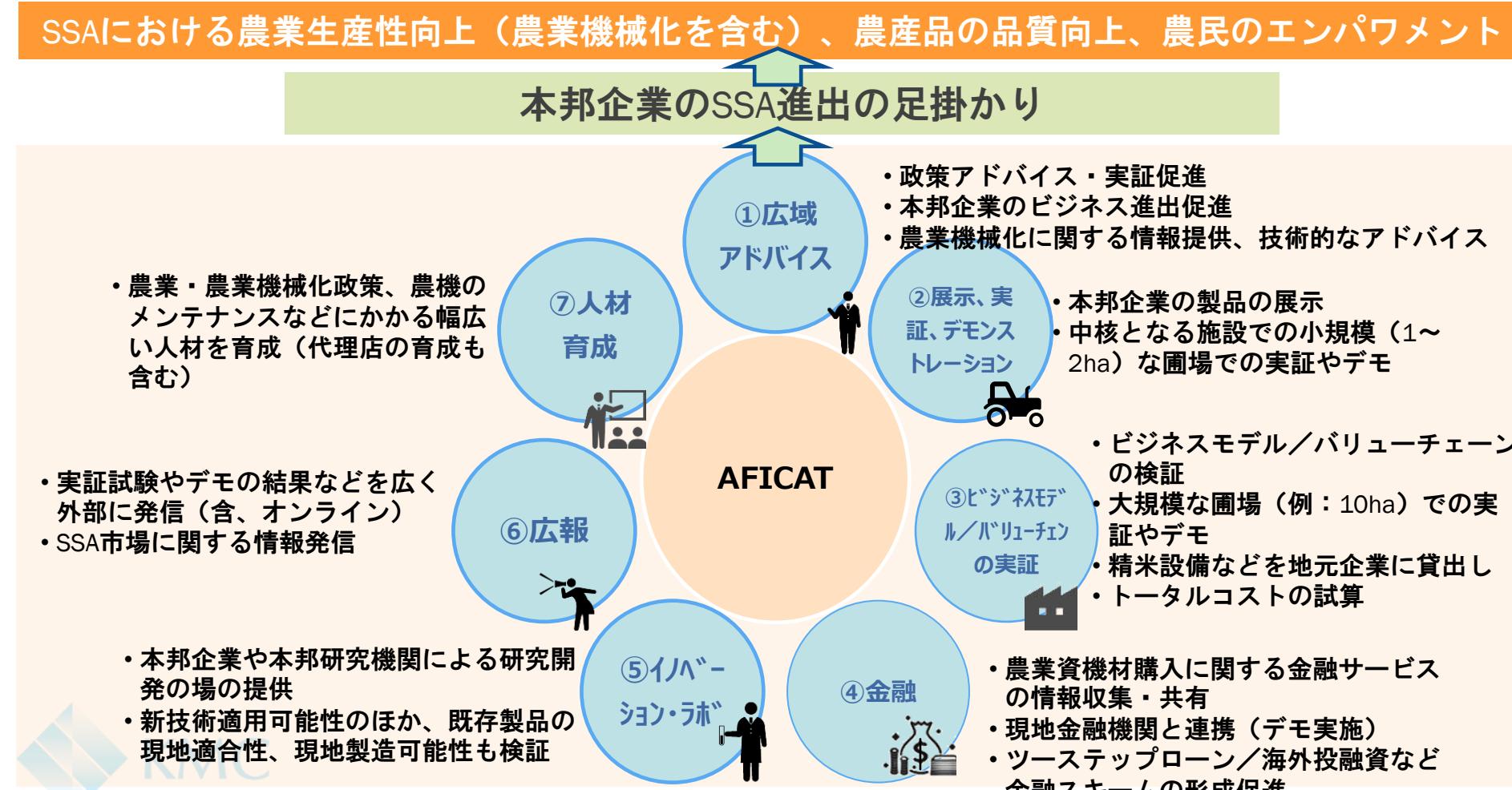
「日・アフリカ農業イノベーションセンター」

(AFICAT : Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology)

※既存の施設・組織に機能を付加する。

※本調査はコメ関連農機を中心に調査するが、AFICATは農業資材や、コメ以外の農産物も幅広くカバーする。

SSAにおける農業生産性向上（農業機械化を含む）、農產品の品質向上、農民のエンパワメント



1) AFICATの背景 ③費用負担の考え方

		AFICAT設置国 政府／民間セクター	日本政府／JICA	本邦企業／ 現地代理店
1	土地、建物	◎	○ 建物のリハビリ、センターおよび周辺の圃場整備	-
2	人員	◎	△	○ 企業から技術者などの派遣
3	農業機械	○ コメ生産など通常業務に必要な農業機械など	△	○ 展示、実証、デモ用の本邦企業の製品（製品の持ち込み費用、消耗品、スペアパーツ代などを含む）
4	農業資材	○ コメ生産など通常業務に必要な肥料などの投入材	△	○ 展示、実証、デモ用の本邦企業の製品
5	運営費（燃料代、施設の維持管理費など）	◎ 通常業務に係る経費	△	○ 実証、デモの実施に必要な経費（燃料費、消耗品、スペアパーツ代などを含む）

※販売促進に関する活動は、基本的には本邦企業／現地代理店が担う。

◎：主に負担

○：一部負担

△：AFICATが全面的に稼働するまでなど、一定期間負担

2) AFICATの進捗：①日本国内の活動

本邦企業の関心拡大に向けた活動を実施。

※農業分野に関して、JICAが持つ知見とネットワークを活用し、現地パートナーと共に、**本邦企業のアフリカ進出をお手伝いします**（情報提供などは**無料**。企業の要望によるセミナー開催や実証試験など、費用が発生する場合は企業様に実費をご負担いただきます）。

現地の政府・民間組織・販売代理店候補などとの
関係構築支援

- 農業省など政府関係者や商工会議所など現地関係者の紹介・面談の実施支援

※通訳・資料翻訳は行いません。



農業・農業機械/資材、
主要金融機関などの
現地情報提供

- コメや主要作物の生産や加工の概要
- 主要な金融機関などの情報



企業様のオンライン含む
セミナー・デモ・
実証試験の実施支援

- 開催地、招待者などセミナーやデモ実施に向けた相談
- 実証委託先候補に関する情報を提供

※開催に係る費用は企業様の負担になります。



2) AFICATの進捗：①日本国内の活動

JICA内外の有識者による支援体制

所属先／役職	氏名
1 (株) 新農林社 代表取締役社長	岸田義典氏
2 (一社) 日本農業機械工業会（日農工）専務理事	石井伸治氏
3 (一社) 日本農業機械化協会 専務理事	藤盛隆志氏
4 新潟大学自然科学系教授／元農業食料工学会農機部会長	長谷川英夫氏
5 (独) 国際協力機構 国際協力専門員	大石常夫氏

JICA内部での定例会 **(本フェーズからの取り組み)**

- ・各国のアドバイザー／JICA事務所、JICA経済開発部、AFICAT調査チームによる月例定例会

2) AFICATの進捗 : ①日本国内の活動

1) 情報交換会（本フェーズからの取り組み）

情報交換会	登壇者
第1回ケニア編 (2024年7月10日)	<ul style="list-style-type: none">元農業機械化アドバイザー戦略的農業開発アドバイザー
第2回ナイジェリア編 (2024年8月30日)	<ul style="list-style-type: none">FMAFS連邦農業局局長国家農業機械化センターセンター長ナイジェリア産業鉱物農業商工会議所
第3回タンザニア編 (2024年10月2日)	<ul style="list-style-type: none">農業機械化アドバイザーチームJICAタンザニア事務所
第4回コートジボワール／セネガル編 (2024年12月17日)	<ul style="list-style-type: none">コートジボワール国主要作物・畜産物サプライチェーン強化のための情報収集確認調査チーム国際協力専門員セネガル国農業・農村開発ツーステップローン事業準備調査チーム
第5回ケニア編 (2025年4月8日)	<ul style="list-style-type: none">AFICAT委員会（ケニア）
第6回日本編 (2025年4月24日)	<ul style="list-style-type: none">JICA青年海外協力隊事務局（JICA海外協力隊・連携派遣）JICAアフリカ部（ABEイニシアティブ）農林水産省輸出・国際局国際戦略グループ（農林水産省・WFP事業）
第7回ナイジェリア編 (2025年9月3日)	<ul style="list-style-type: none">農業開発アドバイザー（一財）ササカワ・アフリカ財団Hidemi Consulting Ltd.

2) AFICATの進捗：①日本国内の活動

1) 2) 国内展示会出展（本フェーズからの取り組み）

- ・農業WEEK（2024年10月、2025年10月）
- ・海外ビジネスEXPO（2024年10月）



農業WEEK（2024年、2025年に出展）
関係者の名刺を142枚、116枚、それぞれ受領



海外ビジネスEXPO（2024年出展）
AFICATを紹介するプレゼンを実施



2) AFICATの進捗：①日本国内の活動

4) 本邦招へい

- ・AFICAT主要支援5カ国から、政府代表、民間代表、計10名を招へい
- ・2025年5月19日（月）から23日（金）に開催
- ・2025年5月22日（木）午後に、本邦企業向けにビジネスフォーラムを開催
- ・2025年5月23日（金）はJICA筑波の共創セミナー

5) 有識者による現地視察

- ・コートジボワール、2025年7月28日（月）から8月1日（金）
- ・JiPFAセミナー：8月5日（火）開催



ビジネスフォーラム（2025年5月）
この後、同会場で名刺交換会を実施。

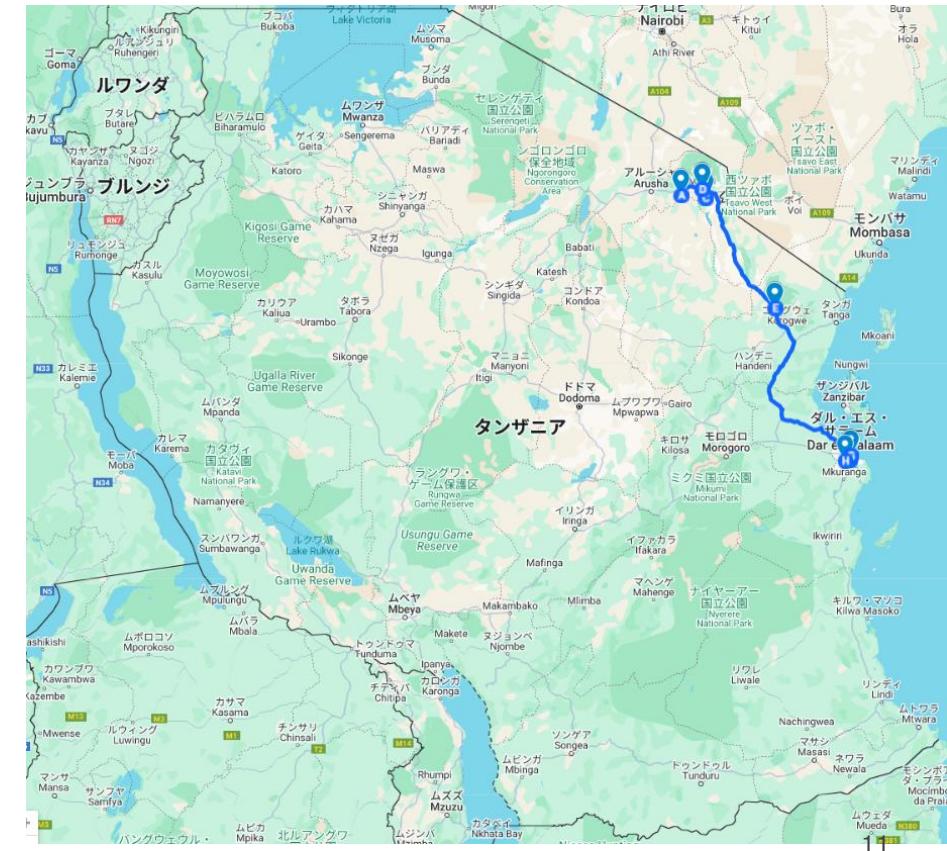


2) AFICATの進捗：①日本国内の活動

3) タンザニア国スタディツアー（農業分野）（本邦企業対象）（本フェーズからの取り組み）

- ・2025年6月30日（月）から7月4日（金）
- ・2025年3月5日（水）事前説明会実施済
- ・8社9名が参加

月日	概要	宿泊場所
6月28日（土）	・日本発	機内泊
6月29日（日）	・タンザニア/キリマンジャロで現地集合 ※オプションツアー（アルーシャ国立公園日帰りツアー）	アルーシャ又はモシ
6月30日（月）	・農業資機材販売店を視察 ・キリマンジャロ農業研修センター（KATC）を訪問	同上
7月1日（火）	・ローアモシ灌漑地区（農家、農業機械所有者との面談、圃場視察） ・移動	コログエ
7月2日（水）	・モンボ灌漑地区（農家、農民組合との面談及び圃場視察） ・移動	ダルエスサラーム
7月3日（木）	・国際見本市（サバサバ）視察	同上
7月4日（金）	・JICAタンザニア事務所訪問 ・タンザニア農業省との協議	同上
7月5日（土）	・タンザニア/ダルエスサラームで解散 ※オプションツアー（ザンジバル日帰りツアーア）	機内泊
7月6日（日）	・日本着	



2) AFICATの進捗 : ②各国の実施体制の構築 (本フェーズからの取り組み)

国	AFICAT委員会/カウンターパート機関の構成	進捗
タンザニア	<ul style="list-style-type: none"> 農業省農業機械化付加価値局★ 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月：AFICAT再稼働に関する合意文書署名済。AFICAT活動計画が農業省副次官らに了承済。 2025年12月時点、民間セクターと共にAFICATを稼働するレターを起案中。
ケニア	<p>AFICAT委員会/AFICAT事務局の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業畜産開発省農業機械化サービス局★ 農業セクターネットワーク★ ジョモケニヤッタ農工大学（追加） 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年4月、5月、8月、2025年1月、4月、8月、11月と四半期に1回のペースでAFICAT委員会が開催。 2025年1月、第4回AFICAT委員会でJKUATが委員会メンバーとして新規加入
ナイジェリア	<p>AFICAT委員会/AFICAT事務局の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> 連邦農業農村開発省（FMAFS）連邦農業局★ FMAFSアグリビジネス市場開発局 国家農業機械化センター ナイジェリア産業鉱物農業商工会議所★ 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年7月に第1回AFICAT委員会（キックオフセミナー）開催（AFICAT委員会設立に関する公式文書署名済）。 2024年7月、12月、2025年7月、12月と半年に1回のペースでAFICAT委員会が開催。
ガーナ	<ul style="list-style-type: none"> 食料農業省（MoFA）農業機械化サービス局★ MoFA作物開発局 ガーナ灌漑開発公社 	<ul style="list-style-type: none"> 2025年3月12日：AFICAT活動計画（案）が関連機関によって作成、その後、最終化。
コートジボワール	<p>AFICAT委員会の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業農村開発省機械化局（MEMINADERPV DPMTA） 農業農村開発省コメ振興局（MEMINADERPV DPR）★ コメ振興機構（ADERIZ） コートジボワール商工会議所（CCI-CI）★ 国立農業研究センター（CNRA） 農村開発支援公社（ANARDER） コメ加工業者協会（GPUR） コートジボワール銀行・金融機関協会（APBEF-CI） コートジボワール小規模金融システム協会（APSFD-CI） 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月5日：AFICAT委員会の合意文書署名。2025年11月末までに18回のAFICAT委員会を開催。 MEMINADERPV DPMTA、MEMINADERPV DPR、ADERIZ、CCI-CIの局長らが議長／共同議長として議決権を持ち、それ以外のメンバーが他国でいう事務局のような役割を果たす。 2025年3月に開催されたAFICAT委員会で、AFICATの7つの機能に対応できるように、<u>CNRA、ANADER、GPUR, APBEF-CI、APSFD-CI</u>がメンバーとしてAFICAT委員会に参加することになった。
<p>・ ケニア、ナイジェリア、コートジボワールでは、政府機関に加え商工会議所など民間セクターの代表をメンバーとするAFICAT委員会が設立され、AFICATを運営する体制を作った。ケニアでは大学が新たにAFICATの運営母体に参加することになった。</p>		
<p>★本邦招へい参加者所属先</p>		

2) AFICATの進捗：③各国での活動

現地主催セミナーの実施（本フェーズからの取り組み）

(1) AFICAT委員会（ケニア） /ASNETによるケニア関係者向けセミナー

- ・2025年5月7日、本邦企業2社に登壇いただき、ケニア関係者に製品・技術を紹介（現地関係者を対象としたセミナー）

(2) AFICAT委員会（ナイジェリア）によるAFICATセミナー

- ・2025年11月10日、ラゴス国際見本市でAFICATセミナー実施（本邦企業関係者4社が登壇）

(3) AFICATセミナー（ガーナ）（AFICAT調査チーム主催）

- ・2025年10月21日：現地関係者向けセミナー（本邦企業関係者4社が登壇）

(4) AFICAT委員会（コートジボワール）主催セミナー

- ・2025年12月10日：本邦企業向けセミナー

- ・2025年12月11日：現地関係者向けセミナー（本邦企業4社が登壇）



AFICATセミナー（ガーナ）（2025年10月）



AFICAT委員会（コートジボワール）主催セミナー（2025年12月）



AFICAT委員会（ナイジェリア）主催セミナー（ラゴス国際見本市）（2025年11月）



2) AFICATの進捗：③各国での活動

展示会出展（パイロット活動期間はタンザニアのみであったが、本フェーズでは5カ国で順次参加）

※2025年も各国で類似のイベントに参加予定し、計17回展示会に出展した。

時期	国	展示会名	備考
1 2024年7月	タンザニア	国際見本市 (サバサバ)	東アフリカ最大規模の国際見本市（例年20万人ほどが来場）。在タンザニア日本大使館/JICAによって、ジャパンゾーンが設置（2025年もジャパンゾーンが設置予定）。
2 2024年8月	タンザニア	農業祭（ナネナネ）	タンザニア国内7カ所で開催。ムベヤ会場に出展。
3 2024年9月	ルワンダ	AFSF 2024	Africa Food System Forum。アフリカ全体のハイレベルなフォーラムで、2023年はタンザニア、2024年はルワンダで開催。毎年、70カ国以上から3,000人以上が参加（2025年はセネガルで開催予定）。
4 2024年10月	ケニア	ケニアエンジニア学会	Institution of Engineer of Kenya (IEK)。
5 2024年11月	ガーナ	農民の日	毎年12月第一金曜日に開催されるイベント（2024年は大統領選挙のため11月に開催）。
6 2024年11月	ナイジェリア	AAMETEX	African Agricultural Machines/ Equipment and Technology Expo。連邦農業食料安全保障省が中心となり実施。
7 2025年5月	コートジボワール	SARA	コートジボワール商工会議所／政府機関の支援を受け実施中。



ケニアIEKでは、AFICATブースに加え、本邦企業/現地パートナーによる実機・製品展示あり ガーナ農民の日では農業大臣（当時）がAFICATブースを訪問



タンザニア農業祭では現地代理店の協力により
トラクタ/耕耘機も展示



AFSFでは本邦企業スタッフも製品紹介



ナイジェリアAAMETEXではAFICATブースに加え、
本邦企業によるブース出展もあり

2) AFICATの進捗：③各国での活動

常設の展示室（AFICATショールーム）を設置（コートジボワール、ナイジェリアで展示スペースを新たに確保）



ケニア ジョモ・ケニヤッタ農工大学 (JKUAT)

※JICA技術協力プロジェクト実施中
主な訪問者：
大学教員、農工学部学生、政府関係者など



タンザニア キリマンジャロ農業研修センター (KATC)

※JICA技術協力プロジェクト実施中
主な訪問者：
農民、農民組合、学生、政府関係者など



コートジボワール（NEW!!） 商工会議所

※AFICAT委員会
主な訪問者：
幅広い現地企業・政府関係者など



ナイジェリア（NEW!!） 連邦農業食料安全保障省 アグリビジネス市場開発局建物内

※AFICAT委員会
主な訪問者：
政府関係者など

参加費用：無料（資機材やチラシなどの輸送手配／輸送費の支払いなどは企業様の負担になります）

対象企業：農業資機材メーカー（農業系IT、アプリケーションソフトなどを含む）

展示内容：農業資機材（製品）、プロモーション動画、企業紹介パンフレット、製品カタログ・チラシ、企業担当者の名刺、写真など

2) AFICATの進捗：④活動進捗 (2025年10月末時点)

	補足	(パイロット期間)	本フェーズ
1 AFICATを活用した企業数 (5カ国を通して)	本邦企業 現地企業	(36社→)	54社 (累計67社) 6社
2 AFICATの支援で実施された面談／セミナー／実証／やデモンストレーションなどで現地に紹介された農業生産性向上、収益性向上に裨益する製品・技術の数 (企業の数)			22件
3 AFICATの支援で実施された面談／セミナー／デモンストレーション／実証などの回数			43件
4 AFICATの支援で実施された面談／セミナー／デモンストレーション／実証などの参加人数(現地)			265人
5 AFICATの支援で実施された展示会の訪問人数 (現地)			3,600人
6 AFICATの支援で実施された展示会の訪問人数 (日本国内)	農業WEEK/ 海外ビジネスEXPO		288人
7 AFICATのメーリングリスト登録数 (日本国内向け)		(309→)	752
8 AFICAT情報交換会参加者数			409

※AFICATを活用する本邦企業の数は増加している（特に日本国内の展示会出展以降）。

※アフリカの現地関係者からの問い合わせも徐々にでてきてている。

※面談/セミナー実施など、隨時、対応している。

※現地で実施される展示会は現地関係者で運営ができるつつある（ただし、本邦製品に対する知識/一般的な知識がより必要）。

※情報交換会も好評。参加者も毎回50人++。情報交換会後には任意参加（実費負担）の懇親会も開催。

2) AFICATの進捗：⑤現地からの問い合わせ対応/AFICAT MLの活用

<日本から現地への問い合わせ>

- AFICAT調査チームから現地にいるJICA専門家（アドバイザー）/JICA事務所へ問い合わせ、JICA専門家（アドバイザー）/JICA事務所から適宜、AFICAT委員会/AFICAT事務局などと調整し、回答を得る仕組みを試行中。

<現地からの問い合わせ対応>

- 幅広い本邦関係者の知見が必要な時は、AFICAT メーリングリストを活用し、関連する情報を収集する仕組みを試行中。

国	現地関係者からの問い合わせ
ケニア	<ul style="list-style-type: none">大規模精米所から粒殻を活用できる機械を製造する本邦企業の紹介依頼あり。農業省農業次官よりジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）対策に関する技術の紹介依頼あり。
ナイジェリア	<ul style="list-style-type: none">現地企業から本邦農機（トラクタなど）を調達したいので、本邦企業の紹介依頼あり。UNHCRから本邦企業との連携の可能性の打診あり。
ガーナ	<ul style="list-style-type: none">現地企業から本邦農機（耕うん機）がどこで購入できるかJICA事務所に問い合わせあり。現地NGOから、当該NGOが連携を希望する本邦企業／本邦NGOのリストが提供された。
タンザニア	<ul style="list-style-type: none">現地カシュー生産者からUNIDOスキームと一緒に応募する本邦企業の紹介依頼あり。
コートジボワール	<ul style="list-style-type: none">UN Womenから本邦メーカーの紹介依頼あり。女性の起業家を支援する投資機関から本邦製品の紹介依頼あり。

- 日本から現地、現地から日本への情報発信/情報交換の仕組みを試行した。
- AFICATのメーリングリストを通じて、本邦製品/技術に関する情報を得られる仕組みができた。
- AFICAT重点支援5カ国以外にも、エチオピア、モザンビーク、ガンビアなど他国からの問い合わせもあり。

3) 本邦企業からのフィードバック ①活用した支援／役立った支援

- 本調査でAFICATを活用いただいた本邦企業のうち、農業資機材メーカー、IT／衛星／システムほか農業関連技術を有する**本邦企業41社**を対象に、質問票調査（オンラインの質問フォーム）を2025年11月に実施。同じ会社でも担当地域や内容が異なることもあるため、**61名に回答を依頼した**。その結果、**26社29名から回答**いただいた。

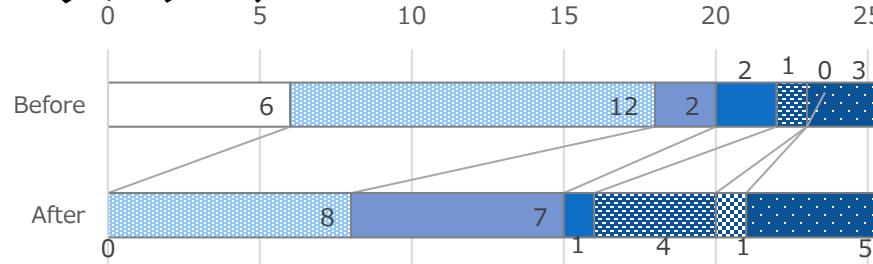
	機能	支援内容	活用した 支援内容	特に役だった 支援内容	特に役だった ／活用した
1	機能1	現地情報の提供	23	14	60.9%
2		情報交換会への参加	20	14	70.0%
3		現地のJICA専門家や現地関係者との面談実施支援	13	10	76.9%
4		本邦招へい／ビジネスフォーラム	10	7	70.0%
5		現地視察の支援	8	4	50.0%
6		スタディツアーへの参加（2025年6-7月）	7	6	85.7%
7	機能2	展示会への出展	21	14	66.7%
8		セミナーの実施支援	10	5	50.0%
9		デモンストレーションの支援	2	1	50.0%
10	機能3	ビジネスモデルやバリューチェーンの実証・検証支援	0	0	-
11	機能4	金融機関や金融スキームに関する情報提供	4	2	50.0%
12	機能5	製品開発（R&D）の支援	0	1	-
13	機能6	広報	5	1	20.0%
14	機能7	人材育成	0	0	-
15	その他	その他	0	0	-

- 活用した支援、特に役だった支援とともに、**①現地情報の提供、②展示会、③情報交換会への参加**への出展となった。
- 活用した人のうち、特に役だったという回答の割合が多かったものは、**①スタディツアーへの参加、②現地関係者との面談支援、③情報交換会への参加、③本邦招へい／ビジネスフォーラムへの参加**となった。
- AFICATの活用の意向を確認したところ、**29名全員が今後もAFICATを活用することを希望**すると回答

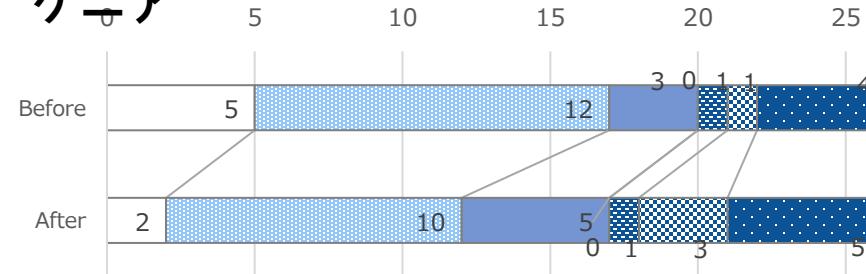
3) 本邦企業からのフィードバック ②ビジネス展開の変化

- ・ ビジネス展開の変化について、2022年3月（AFICATパイロット活動開始時）と比較して回答いただいた（26社）。

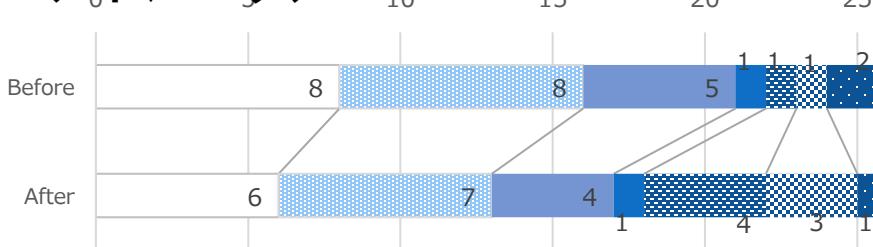
タンザニア



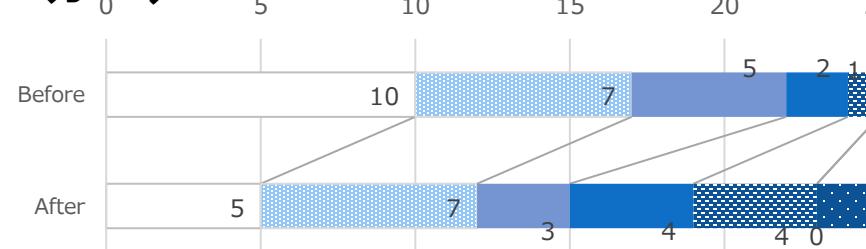
ケニア



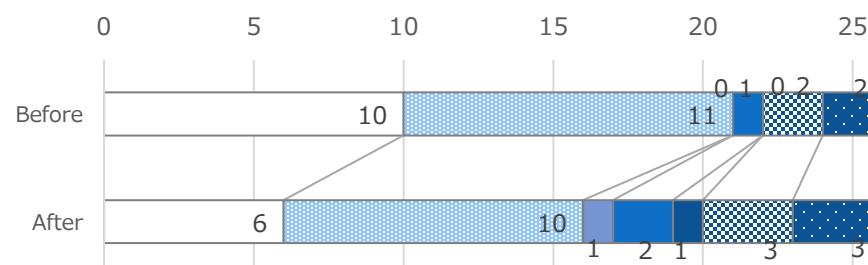
ナイジェリア



ガーナ



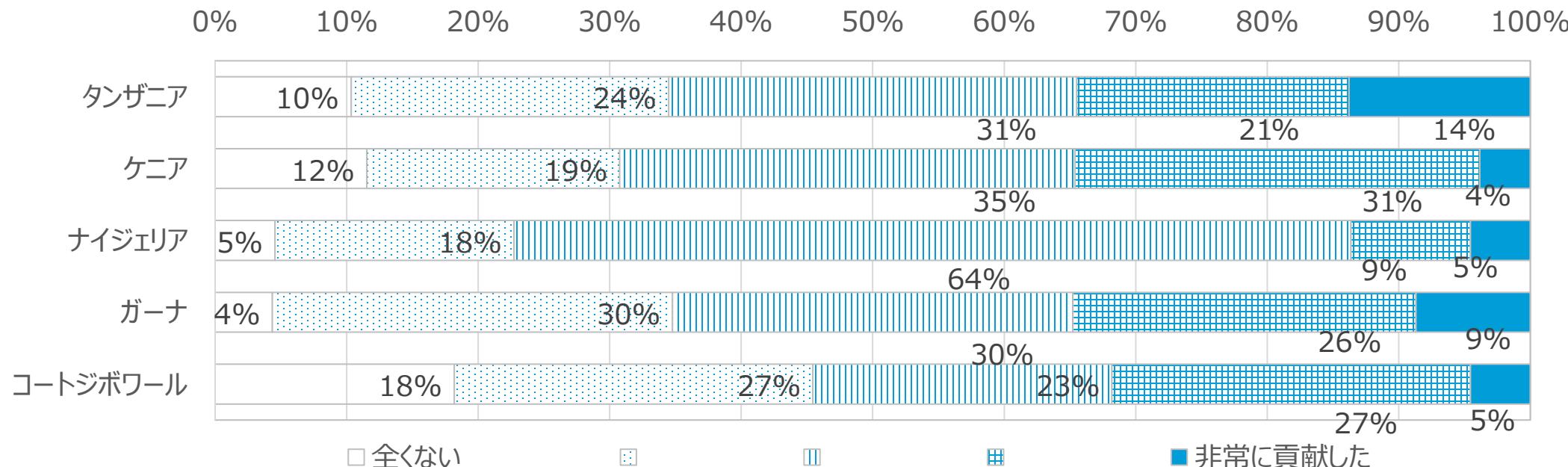
コートジボワール



- ・ 回答いただいた26社については、ビジネス展開を進めていることがわかる。
- ・ 例えば、タンザニアでは2022年3月時点、タンザニア進出に関心がなかった企業が6社いたが、2025年11月時点では0になった。2022年3月当時、販売開始あるいは販売拡大していた企業は3社であったが、2025年11月時点では6社に増えている。

3) 本邦企業からのフィードバック ③AIFCATの貢献

- AFICATの貢献度を、「全くない」から「非常に貢献した」までの5段階で確認した（前述の質問で「0）関心がない」と回答した企業は母数から除いた）。



- 国によってばらつきはあるものの、14~35%の企業が、ビジネス展開の促進に「貢献した」あるいは「非常に貢献した」と回答した。

3) 本邦企業からのフィードバック ④より貢献するための具体的な取り組み

どうすればAFICATが本邦企業のビジネス展開により貢献できるか確認したところ、以下のような意見が共有された。

1) JICAとの連携、知見の共有

- ・AFICATの事業を通じて同業他社（特に海外企業）の動向や成功事例などの共有
- ・JICAが持つ過去知見の共有、発信
- ・現地のJICAや業務委託されているコンサルと繋いで頂くこと
- ・JICA専門家や現地関連機関との連携の継続
- ・JICAの既存のプロジェクトとの積極的な情報交換などの機会を設けていただけるとより深い協力ができる

2) 現地関係者の紹介強化

- ・現地ネットワークの拡大（2社）
- ・現地顧客候補の紹介（2社）
- ・代理店候補先の紹介、現地農政当局からの支援
- ・適切な代理店の紹介（3社）

3) 長期的な取り組み

- ・アフリカ事業は開拓に時間を要するので、長期的な取り組みを実施
- ・10年単位で目立った成果を出す活動だと思う。

3) 金融情報の提供

- ・現地での金融スキームなど、現地に深く根差していないと得られないような情報の提供
- ・効果的な入札への働きかけ（製品引渡し後のフォローも含めて）や金融スキームに関する提案
- ・より踏み込んだ形での、デモンストレーション実施、金融関連のサポート

4) デモ圃場の設置

- ・各国にデモ農地の設置（本邦企業の技術展示）

5) その他

- ・頻度を高めた情報交換の場の設定
- ・こちらが望む情報のタイムリーな発信
- ・スタディツアーの実施
- ・TICADへの共同出展

4) まとめ

- 本調査期間中、AFICATを活用した本邦企業は54社、パイロット活動期間も含めると67社となった。
- AFICATを活用した本邦企業は、各国でそれぞれビジネス展開を促進させ、AFICATはそれに一定の貢献をした。
- AFICATの機能のうち、機能①アドバイス、機能②展示が活用された。本邦企業から「特に役だった」と思われた支援は「現地情報の提供」「展示会への出展」「情報交換会への参加」であった。活用した数が少ないものの「スタディツアー」は活用した人の多くにとって特に役に立ったと思われている。
- アンケート回答者は全て、引き続きAFICATの活用を希望している。長期的な取り組みを期待する声あり。
- 各国でAFICATの活動を推進するAFICAT委員会／AFICAT事務局が立ち上がり、展示会出展、主催セミナー実施などの動きが出てきている。